

教員養成教育の「質保証」システムを創る

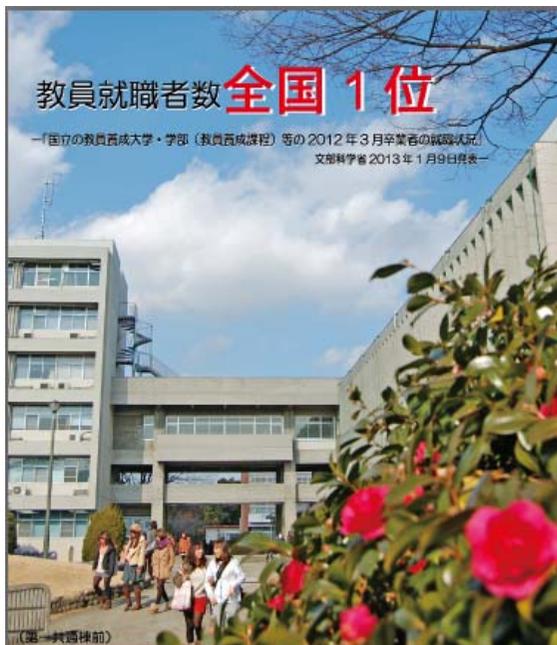
パネルディスカッション
「優れた教員養成機関をどうサポートするか」

愛知教育大学 松田 正久

2013.03.20

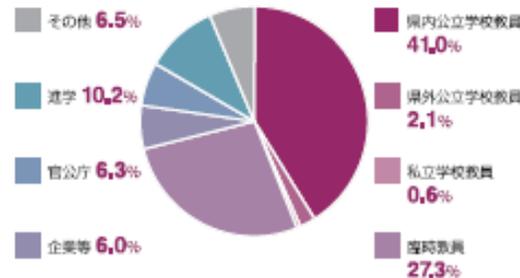
国立大学法人愛知教育大学とは？

- 入口(2012実績)・・・950人
 県内出身者 82% 東海92% 地元依存率高い
- 出口(2011実績)・・・最短卒業率90%

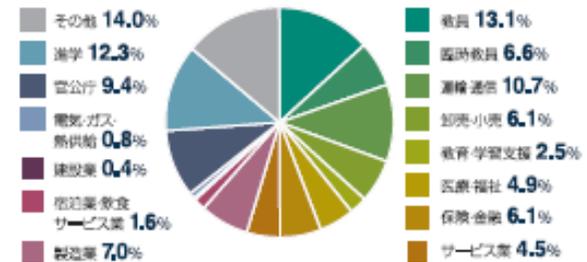


2011年度学部卒業生進路状況 (2012年5月1日現在)

教員養成課程(計)



現代学芸課程(計)



教員養成課程666人 正規教員291 臨時182 計473(71%)
 企業・官公庁82 進学68
現代学芸課程244人 正規教員 32 臨時 16 計 48(20%)
 企業・官公庁133 進学30
教育学研究科126人 教員就職69人(55%)
教職大学院36人 教員就職35人(97%)

教育振興基本計画・中教審答申と教員養成評価

□ 教育振興基本計画(2008～2012)

基本的方向2 個性の尊重、個人・社会の一員としての生きる基盤

③ 教員の資質の向上を図るとともに、一人一人の子どもに教員が向き合う環境をつくる
【施策】◇教員養成・研修等の推進

教員養成に係るカリキュラムや、教職課程に係る事後評価、認定審査の在り方などを見直し、逐次実施する。その状況も踏まえつつ、教員養成の在り方の抜本的な改革について検討する。あわせて、専修免許状の取得を促す。

□ 中教審2012.8.28答申「教員の資質能力向上」

Ⅲ. 当面の改善方策(1) 国公立大学の学部における教員養成の充実

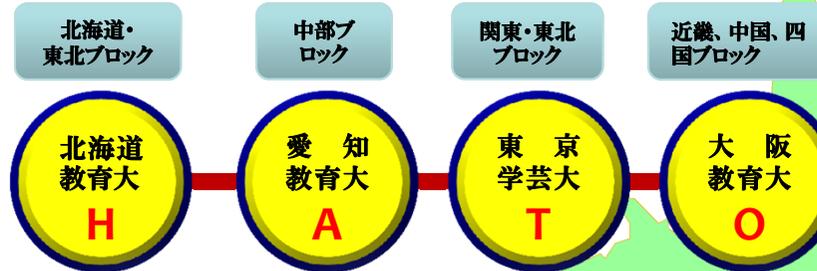
③ 教職課程の質保証

- 事後評価に関し、課程認定委員会による実地視察については、訪問校を増やすとともに、評価の観点についても、認定時の水準の維持向上が図られているかに加え、学生や卒業生からの聞き取り、学校や教育委員会の評価も加えるなど、更なる改善を図る。これに加え、教員養成教育の評価システムや大学間コンソーシアムを活用した相互評価システムの取組等新たな事後評価システムの構築を推進する。

⇒ HATOプロジェクトの課題

HATOプロジェクト:大学間連携による教員養成の高度化支援システムの構築

大規模教員養成系単科大学を中心に、日本の教員養成教育の諸課題に対応する機構を共同設置するとともに、全国の教員養成学部との交流・支援の拠点とする。



教員養成開発連携機構

4大学(HATO)が、大学間の連携をもとに、教員養成大学・学部の共同利用の総合的教育・研究拠点を形成する。この機構は、4大学を核にしたものだが、全国に開かれた運営を行うとともに、全国の教員養成大学・学部との連携・協力を促進し、教員養成の諸課題に積極的に対応する。

機構会議 (東京学芸大学長・機構長、他の3大学の学長・副機構長)

運営会議 (各大学の理事・事務局長から構成し、審議機関にする)

東京学芸大学教員養成開発連携センター

交流・相互支援部門
・教員養成相互支援ネットワークの構築

IR (Institutional Research) 部門
・相互評価に基づく教員養成課程の質保証システムの創出
・教員養成大学における評価指標の共同開発

研修部門
・教員養成大学におけるSD,FDの共同実施と研修プログラム等の開発

先導的実践プログラムの開発事業部門

「連携大学院」の設置

北海道教育大学
教員養成開発連携支援センター

愛知教育大学
教員養成開発連携支援センター

大阪教育大学
教員養成開発連携支援センター

【目指す方向】

- 教員養成系大学のIR機能の充実
- 大学の枠をこえた現代的教育課題への実践研究とその成果の還元
- 授業の共同開発や実施など教員養成系大学・学部間の相互支援の強化

【成果】

- 大学の枠をこえた教員養成系大学共通の評価指標の開発
- 評価指標をもとにした学習コミュニティの創造
- IRの成果をいかした教員養成大学の学習の実質化
- IRに関わるFD, SD研修の共同実施
- 共同の授業科目の開発、設置(e-learningの活用等)
- 教育実習モデルと教員研修モデルの共同開発

年度別の主要事業計画

- H24年度**
- 教員養成開発連携支援機構設置
 - 教員養成開発連携支援センター開設
- 先導的実践プログラムの開発事業の展開
- IR部門の立ち上げ準備
- H25年度**
- センター機能の拡充
- H26年度**
- 拠点大学の拡充
- H27年度**
- 「連携大学院」の開設

国立大学法人の機能強化

- ◆大学の個性と特色の明確化
- ◆教員養成の質保証
- ◆政策動向への迅速な対応

教員養成系大学・学部の課題

- ◆大学における教員養成教育のカリキュラム開発
- ◆現代的教育課題への即応的な対応
- ◆教員養成の修士レベル化への対応
- ◆教育委員会を中心にした地域連携のあり方
- ◆国際連携(国際化への対応)
- ◆教職を軸にしたキャリア支援

大学改革の促進

- ◆全国の教員養成系学部との連携強化
- ◆ICTを活用した相互交流・支援の促進
- ◆教職員の人事交流の促進

愛知教育大学の目指す教員養成

□三つの構成力の育成

- ① 授業を構成する力
- ② 生活指導を構成する力
- ③ 学校運営を構成する力

□アドミッション(A)・カリキュラム◎・ディプロマ(D)の三ポリシーの統一的定義

A.幅広く深い教養、人間性及び総合的判断力、使命感・責任感、深い専門的能力

□教員養成の多様化

- 小学校免許コース(院)、6年一貫コース(学部一院)
- 目的課程(70%)と開放課程の併設による相乗効果

愛知教育大学の教員養成強化の取組

□ 特別経費

- ① 学習指導案データベース化を軸とする教育実習支援システムの構築(H23～H26)・・・800件登録
- ② 教員養成キャリアと教員の資質能力の関係に関する調査研究(H24～H26)
学士課程・修士・教職院・六1コース・小免コース教員の聞き取り調査
- ③ 教員養成機能の充実(国立教育学部共通)(H24～)
- ④ 本学の特徴を活かす取組
 - a. 科学ものづくり教育拠点形成(H21～H24)
 - b. 外国人児童生徒学習支援(H21～H25)
 - c. 小中英語実践力向上(H23～H25)
 - d. 環境教育研究とエコキャンパス創造(H23～H26)
 - e. 教員養成を特徴化するリベラル・アーツ教育(H23～H26)

□ 大学間連携共同教育推進事業(H24～H28)

- ① 愛知県内教員養成高度化支援システムの構築(国公私)

□ 国立大学改革強化推進事業(H24～H29)

- ① HATOプロジェクト～教員養成ルネッサンス～
北海道教育(H)・愛知教育(A)・東京学芸(T)・大阪教育(O)
- ② 国際人材育成と国際化の加速度的推進
名古屋・愛知教育・三重

アクレディテーション基準を巡って

【課題】＝教員養成機能と現状の課題

□大学における教員養成とは何か

- 教養教育を含む共通基礎教育制度
- 学問研究の自由と教育課程決定権
- 研究と教育の不可分相補性

□教員養成教育と教職免許法

- ライセンスかサーティフィケーションか？

□教育大学・学部の教員養成課程と目的養成

- 就職率の縛り・・・○○%ならば目的達成か？

□課程認定と開放制

□いじめ・体罰問題ほか

- 制度の問題か？
- 教育大学・学部の役割

免許状と資格証明について

教員免許状取得者数 (H19年度、小+中)

新規免許状取得者 約7万人(小1.7+中5.2)

採用者数 約1.8万人(小1.2+中0.6)

H22年度採用数 小1.2+中0.7=1.9万人

倍率 小4.4、中8.7

- * 医師(6年)国家試験 90.2% 約4,000人
- * 薬剤師(6年)国家試験 88.3% 約8,000人(初の6年制終了は95.3%)
- * 看護師(4年)国家試験 90.1% 約50,000人
- * 司法(法科大学院6-7年)試験 18.7%(対出願者)
- * 社会福祉士国家試験(大卒のみ) 23.7% 約6,700人

東学大の提起へのコメント

- 基準領域1: **構成員の合意に基づく**主体的教員養成教育
 - 構成員の合意の困難性⇔ディプロマポリシーの明確化による克服
 - 主体性の確保と教職免許法の制限(128単位中59単位の縛り)
 - 教育内容の標準化指標と自主性の確保
 - 質的に多様な教員構成の必要性(価値観の多様性)
- 基準領域2: 教職を担うべき**適切な人材**の確保
 - 教職を担うべき「適切な人材」の持つべき要素
 - アドミッションポリシーの明確化
 - 「適切な人材」確保のための入試制度の改革
- 基準領域3: 教職への**キャリア・サポート**
 - 初年次から卒業までの一貫性・統一性・系統性・発展性あるサポート体制の構築
 - 魅力ある職業としての教職への意欲・責任感などの醸成、教員の社会的地位の向上
 - 教職以外の道へのバイパスのサポート
- 基準領域4: 教員**養成カリキュラム**の運営
 - カリキュラムポリシーの明確化とその具体化
 - 教育実習の在り方(教育実習と教員採用の強い相関)
- 基準領域5: **義務教育の課題**と大学教育の関連付け
 - 学校・教育委員会・地域との連携協力(相互の独立性に配慮した取組)
- 関係団体と協議したりすることと、教育の責任主体との関係(大学－教委－地域など)
- 研究と教育の統一＝古くて新しい課題